

教育内容	専門分野【基礎看護学】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	看護学概論	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	久保田篤子		
授業概要	看護の基本となる看護の概念や看護の歴史の変遷から、変化・発展し続ける専門職であることを理解するとともに、看護理論をもとに看護の本質を学ぶ。専門職としての機能や役割、社会状況に対応する看護の場や多職種との協働と連携について学習する。また、看護職としての倫理的判断の基盤となる内容やこれからの看護についても学習する。				
回	授業内容				授業方法
1	看護とは何か(看護を考える) ①看護の定義 ②看護職能団体による定義 ③理論家による定義				講義
2	看護を提供する者(看護を实践する看護師の資格) ①保健師助産師看護師法の看護師の定義 ②看護師の資格 ③看護師の業務 ④看護師の役割と機能				講義
3	看護の対象 ①個人 ②家族 ③集団				講義
4	看護活動の場と看護活動				講義
5	看護師以外の医療職種の役割と機能				講義
6	看護の誕生と発展(世界の看護の歴史) 看護の誕生と発展(日本の看護の歴史)				講義
7	看護の理論と理論家				講義
8	看護実践における重要な概念 人間・環境・健康・看護				講義
9	人間の成長発達とライフサイクル ライフサイクル各期の特徴と健康問題				講義
10	健康の指標(康の保持・増進、疾病予防) ヘルスプロモーション 地域包括ケア				講義
11	保健統計と健康に生活するための社会のしくみ				講義
12	病気の経過(病期)の特徴と看護				講義
13	医療安全(医療事故と関連する法律) チーム医療(組織)				講義
14	健康になる権利の社会保障制度 医療保険制度と診療報酬制度				講義
15	グローバル社会における看護 災害時の看護				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門分野【基礎看護学】	開講時期	1年前期	授業形態	講義 演習
科目名	基礎看護技術 I	単位数	1単位	時間数	45時間
		担当教員	山口久美子/ 中ノ森 樹		
授業概要	<p>看護の対象の日常生活援助に必要な看護技術を学ぶ。対象の安全・安楽・自立や倫理的側面を考慮し、原理原則や科学的根拠に基づいた技術の習得を目指す内容とする。</p> <p>基礎看護技術 I は、看護技術とは何か、安全・安楽・自立とは何かを理解し、看護に必要な情報収集や関係性の成立について学び、観察とバイタルサイン測定、コミュニケーション技術を習得する。また、人間の健康に影響を与える環境について学び、環境調整、感染防止に必要な看護技術を習得する。</p>				
回	授業内容				授業方法
1	1. 看護技術の概念 2. 基礎看護技術とは何か				講義
2	3. 観察とは 看護における観察とは(情報収集の手段)				講義
3	4. コミュニケーションとは コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程				講義
4	効果的なコミュニケーションの実際 ①傾聴の技術 ②情報収集の技術				演習
5	演習①: 観察・コミュニケーション				演習
6	6. 安全とは 2)安全管理の技術 ①看護における安全とは ②安全確保の基礎知識 ③ヒューマンエラーとは				講義
7	6. 安全とは 2)安全管理の技術 ④誤与薬の起こりやすい状況と対策 ⑤転倒・転落の起こりやすい状況と対策				講義
8	6. 安全とは 1)安全管理の技術 ⑥チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策 ⑦患者誤認の起こりやすい状況と対策				講義
9	演習②: 安全管理の技術				演習
10	1)衛生学的手洗い法の実施 2)滅菌物取り扱いの原理原則に基づいた実施 ガウンテクニック・滅菌手袋の装着・滅菌操作				演習
11					演習

回	授業内容	授業方法
12	2)感染予防の技術 (1)感染防止の基礎知識 (2)標準予防策(スタンダードプリコーション)の基礎知識	講義
13	7. 安楽とは 1)姿勢の基礎知識	講義
14	2)ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 3)体位の種類と特徴および身体への影響 4)身体ケアを通じてもたらされる安楽	講義 演習
15	①体位保持(ポジション)の意義と安楽な体位保持 ②褥法の種類と適応 ③リラクゼーション	演習
16	全身状態の観察 バイタルサイン測定とは 呼吸・循環の解剖生理 体温調節のしくみ 血圧のしくみ	講義
17	演習③ バイタルサイン測定の技術	演習
18	演習③ バイタルサイン測定の技術	演習
19	身体計測野に関する知識	講義
20	演習④身体計測	演習
21	状況設定に基づいた技術の実施	演習
22	状況設定に基づいた技術の実施	演習
23	状況設定に基づいた技術の実施	演習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テスト・実技試験などで総合的に評価する。	
教科書	資料 講師指定の教科書	

教育内容	専門分野【基礎看護学】	開講時期	1年前期	授業形態	講義 演習
科目名	基礎看護技術Ⅱ	単位数	1単位	時間数	45時間
		担当教員	張替美夕樹		
授業概要	<p>看護の対象の日常生活援助に必要な看護技術を学ぶ。対象の安全・安楽・自立や倫理的側面を考慮し、原理原則や科学的根拠に基づいた技術の習得を目指す内容とする。</p> <p>基礎看護技術Ⅱは、人間は、エネルギーを作るために栄養を摂取し、体に不要な物を排出し、エネルギーを蓄積するために休息をとり、活動してエネルギーを消費して生活していることを学び、食事・排泄・休息・活動に関する援助技術を習得する。</p>				
回	授業内容				授業方法
1	環境とは何か 環境が健康に与える影響 療養生活の場としての環境				講義
2	病床の環境整備 ①病床とは何か ②病床環境を整える目的				講義
3	演習①環境整備(病室環境の調整・ベッド周囲の環境整備)				演習
4	演習②ベッドメイキング				演習
5	演習②ベッドメイキング				演習
6	演習③臥症患者のリネン交換				演習
7	演習③臥症患者のリネン交換				演習
8	活動・休息とは何か ①人間にとっての活動と休息の必要性 ②活動・休息の制限による障害				講義
9	演習④体位変換				演習
10	演習⑤歩行介助(視覚障害あり) 杖歩行・歩行器				演習
11	演習⑥ 車椅子移乗・移送				演習

回	授業内容	授業方法
12	演習⑦ 車椅子移乗・移送	演習
13	演習⑧ 関節可動域訓練 筋力強化訓練	演習
14	食事とは何か 1)人間にとって食事の必要性 2)栄養状態のアセスメント	講義
15	食事に対する障害 ①咀嚼・嚥下・消化・吸収障害とケア ②食欲不振のケア ③食行動の制限 食事のマナー	講義
16	演習⑨ 食事介助	演習
17	演習⑩ 摂食・嚥下訓練	演習
18	人間・健康にとっての排泄とは何か ①排尿・排便のメカニズム ②排尿障害と排便障害 ③自然な排泄と人工的な排泄 対象に適した排泄方法の決定	講義
19	演習⑪ 床上排泄	演習
20	演習⑫ おむつ交換	演習
21	演習⑬ ポータブルトイレ	演習
22	状況設定に基づいた技術の実施	演習
23	状況設定に基づいた技術の実施	演習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テスト・実技試験などで総合的に評価する。	
教科書	資料 講師指定の教科書	

教育内容	専門分野【基礎看護学】	開講時期	1年前期	授業形態	講義 演習
科目名	基礎看護技術Ⅲ	単位数	1単位	時間数	45時間
		担当教員	青木記代美		
授業概要	<p>看護の対象の日常生活援助に必要な看護技術を学ぶ。対象の安全・安楽・自立や倫理的側面を考慮し、原理原則や科学的根拠に基づいた技術の習得を目指す内容とする。</p> <p>基礎看護技術Ⅲは、人間にとっての清潔や身だしなみや衣服を着て生活する意義について学び、血液循環を促し感染を防止して疾病の予防、健康の保持増・健康の回復や社会的側面の促進につながることを理解して、清潔・身だしなみ、衣生活の援助技術を習得する。</p>				
回	授業内容				授業方法
1	人間にとって、健康にとって清潔とは何か 清潔援助の効果とその根拠				講義
2	清潔援助に必要な知識 ①皮膚・粘膜の解剖生理と皮膚の発疹 ②温熱作用・静水圧作用・浮力作用 ③清潔援助が身体に与える影響				講義
3	清潔援助の種類と特徴(浴・浄・拭) ①汚れの除去の違い ②エネルギー消耗の違い ③対象の違い 清潔援助における安全と安楽 清潔援助の効果を得るための直接的行為				講義
4	演習① 入浴・シャワー浴の介助				演習
5	演習② 清拭				演習
6	演習② 清拭				演習
7	演習② 清拭				演習
8	演習③ 洗髪 整容				演習
9	演習③ 洗髪 整容				演習
10	演習③ 洗髪 整容				演習
11	演習④ 手浴・足浴				演習

回	授業内容	授業方法
12	演習④ 手浴・足浴	演習
13	演習④ 手浴・足浴	演習
14	演習⑤ 陰部洗浄	演習
15	演習⑤ 陰部洗浄	演習
16	演習⑥ 目・鼻・耳の清潔 爪切り・ひげそり	演習
17	演習⑦ 口腔ケア(含嗽・歯磨き)	演習
18	演習⑦ 口腔ケア(含嗽・歯磨き)	演習
19	人間にとって、健康にとって衣生活とは何か 衣服の機能と障害(衣服の安全と安楽) 病衣の条件と種類	講義
20	演習⑧ 臥床患者の寝衣交換の技術 ①和式寝衣 ②パジャマ	演習
21	演習⑧ 臥床患者の寝衣交換の技術 ①和式寝衣 ②パジャマ	演習
22	状況設定に基づいた技術の実施	演習
23	状況設定に基づいた技術の実施	演習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テスト・実技試験などで総合的に評価する。	
教科書	資料 講師指定の教科書	

教育内容	専門分野【基礎看護学】	開講時期	1年後期	授業形態	講義演習
科目名	臨床看護総論	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	大貫さとみ		
授業概要	健康に障害持つ対象に対して臨床の場で行われる看護について理解し、健康障害をもつ対象の特徴や健康障害の経過と看護、生命維持機能の障害と看護、日常生活活動の障害と看護、検査・治療を受ける患者の看護について学ぶ内容とする。また、医療機器の使用についても学ぶ。				
回	授業内容				授業方法
1	1. 臨床看護とは 2. 臨床看護における対象者の理解 3. 臨床看護の現場				講義
2	健康障害の経過から見た看護 1)健康障害のレベルとしての経過とは 2)健康の保持・増進を目指す看護				講義
3	健康障害の経過から見た看護 1)急性期における看護 2)慢性期における看護				講義
4	健康障害の経過から見た看護 1)リハビリテーション期における看護 3)終末期における看護				講義
5	症状を示す対象者への看護 1)呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム				講義
6	症状を示す対象者への看護 2)循環障害に関連する症状のメカニズム				講義
7	症状を示す対象者への看護 3)栄養・代謝障害に関連する症状のメカニズム 4)排泄機能障害に関連する症状のメカニズム				講義
8	症状を示す対象者への看護 5)休息・睡眠に関連する症状のメカニズム 6)認知や知覚に関する症状のメカニズム				講義
9	症状を示す対象者への看護 7)コーピングに関連する症状のメカニズム 8)生体防御に関する症状のメカニズム				講義
10	症状を示す対象者への看護 9)安楽に関連する症状のメカニズム				講義

回	授業内容	授業方法
11	治療・処置を受ける患者の看護 1)輸液療法を受ける対象の看護	講義
12	治療・処置を受ける患者の看護 3)化学療法・放射線療法を受ける対象の看護	講義
13	治療・処置を受ける患者の看護 4)手術療法を受ける対象の看護	講義
14	治療・処置を受ける患者の看護 5)集中治療を受ける対象の看護	講義
15	治療・処置を受ける患者の看護 6)身体侵襲を伴う検査・処置を受ける対象の看護	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。	
教科書	資料 講師指定の教科書	

教育内容	専門分野【基礎看護学】	開講時期	1年後期	授業形態	講義 演習
科目名	臨床看護技術Ⅰ	単位数	1単位	時間数	45時間
		担当教員	山口久美子		
授業概要	<p>看護の対象の診療の補助に必要な看護技術を学ぶ。対象の身体侵襲や苦痛をとまなう技術であることを理解し、患者の安全と安楽、生命倫理を考慮して、治療や検査にとまなう看護技術の習得を目指す内容とする。</p> <p>臨床看護技術Ⅰは、人間の身体がどういう状態であるか把握するための技術、治療に伴う看護技術として、フィジカルアセスメント、呼吸・循環を整える技術、与薬・輸血の技術にとまなう看護技術を習得する。</p>				
回	授業内容				授業方法
1	生命維持/日常生活に影響を及ぼす障害と看護 1)呼吸が障害されるということ 2)呼吸運動の調節のしくみ 3)酸素療法				講義
2	1)酸素ポンペの種類(残量計算方法) 2)酸素吸入の方法と濃度 3)酸素ポンペの取り扱い(流量計の接続方法) 4)酸素流量計の合わせ方 5)酸素カニューレの装着				講義 演習
3	排痰ケア(体位ドレナージ) 咳嗽介助・ハフティング				演習
4	口腔・鼻腔吸引 気管内吸引 持続吸引(胸腔ドレナージ)				演習
5	吸入 人工呼吸療法				演習
6	体温調節のしくみ 発熱のしくみ ケーリング・冷罨法・温罨法 低体温療法				講義 演習
7	与薬法 (1)与薬の目的・種類 ①経口的与薬法 ②口腔内与薬法 ③直腸内与薬法 ④塗布・塗擦法・点鼻、点眼、点耳 ⑤静脈内注射法 (2)薬物の吸収機序・薬物の副作用 (3)実施上の注意事項 (4)薬の管理(毒薬・劇薬・麻薬の管理)				講義
9	経口的与薬法・直腸内与薬法の実施				演習
10	注射法 (1)注射法の目的・種類と部位 ①皮内注射 ②皮下注射 ③筋肉注射 ④静脈内注射 (2)注射法実施時の注意事項				講義

回	授業内容	授業方法
11	注射法 (1)点滴静脈内注射 ①輸液セットの接続方法 ②輸液管理三方活栓の取り扱い ③固定法 ④輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い (2)静脈内注射 ①アンプルカット・アンプルからの吸い上げ	講義
12	モデル人形を使って皮内・皮下・筋肉注射の実施	演習
13	モデル人形を使って静脈内注射の実施 (1)点滴静脈内注射の実施 (2)静脈内注射の実施	演習
14	ヘルスアセスメントの概念 フィジカルアセスメントとは何か フィジカルアセスメント(問診・触診・聴診・打診)	講義
15	ヘルス・フィジカルアセスメントに必要な技法 (健康歴・病歴聴取の仕方、臨床看護の面接技法、診察評価の仕方)	演習
16	聴診 打診 触診	演習
17	聴診 打診 触診	演習
18	聴診 打診 触診	演習
19	呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義
20	循環器系のフィジカルアセスメント	講義
21	運動器のフィジカルアセスメント 腹部のフィジカルアセスメント	講義 演習
22	状況設定に基づいた技術の実施	演習
23	状況設定に基づいた技術の実施	演習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テスト・実技試験などで総合的に評価する。	
教科書	資料 講師指定の教科書	

教育内容	専門分野【基礎看護学】	開講時期	1年後期	授業形態	講義 演習
科目名	臨床看護技術Ⅱ	単位数	1単位	時間数	45時間
		担当教員	中ノ森 樹		
授業概要	<p>看護の対象の診療の補助に必要な看護技術を学ぶ。対象の身体侵襲や苦痛をともなう技術であることを理解し、患者の安全と安楽、生命倫理を考慮して、治療や検査にともなう看護技術の習得を目指す内容とする。</p> <p>臨床看護技術Ⅱは、治療・検査にともなう看護技術、救急救命にかかわる看護技術として、経管栄養・胃ろう、静脈栄養、導尿、人工肛門の管理、創傷管理、救急救命処置技術を習得する。</p>				
回	授業内容				授業方法
1	創傷管理技術 創傷の治癒過程				講義
2	演習① 創部の消毒 創洗浄と創保護(ドレッシング剤)				演習
3	演習② 包帯法 三角巾の上肢固定				演習
4	褥瘡予防 褥瘡発生のメカニズム 好発部位 援助の実施				講義 演習
5	救命救急処置技術 意識の確認 トリアージ 心肺蘇生法				講義
6	救命救急処置技術 止血法 胃洗浄 院内急変時の対応				講義
7	演習③ トリアージ 心肺蘇生法				演習
8	演習④ 止血法 胃洗浄 院内急変時の対応				演習
9	看護師が行う診療の補助 (1)診療の補助とは何か (2)診察に伴う援助 ①診察とは何か ②診療における看護師の役割 ③診察の介助				講義
10	検査に伴う援助 ①検査の目的・種類 ②検査における看護師の役割 ③検査時の介助				講義

回	授業内容	授業方法
11	検査に伴う援助 ①検体検査の採取(血液・便・尿・痰) ②直接検査の介助 (レントゲン検査・造影剤検査・内視鏡検査・生理機能検査等)	講義
12	演習③ 心電図検査・心電図モニター・パルスオキシメーター	演習
13	安全確保の技術 医療事故	講義
14	インシデント・アクシデントの速やかな報告 誤薬防止	講義
15	チューブ類の予定外抜去防止(抑制) 患者誤認防止 転倒・転落防止	講義
16	日常生活援助にかかわる診療の補助技術(食事) 非経口的栄養摂取技術(経管栄養 中心静脈栄養)	講義
17	演習④ 経管栄養法	演習
18		演習
19	日常生活援助にかかわる診療の補助技術(排泄) 導尿 浣腸 摘便 ストーマケア	講義
20	演習⑤ 導尿(持続的導尿)	演習
21		演習
22	演習⑦ 点滴をしている患者の寝衣交換	演習
23	状況設定に基づいた技術の実施	演習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テスト・実技試験などで総合的に評価する。	
教科書	資料 講師指定の教科書	

教育内容	専門分野【基礎看護学】	開講時期	1年後期	授業形態	講義 演習
科目名	看護学方法論	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	久保田篤子		
授業概要	看護過程、看護理論、看護記録について学習し、看護とは何かという看護の概念を形にするための看護の展開について理解する。				
回	授業内容				授業方法
1	創傷管理技術 創傷の治癒過程				講義
2	看護過程の構成要素 人間・健康・環境・ニードとは何か				講義
3	看護理論と中範囲理論 理論の活用について				講義
4	情報とはなにか				講義
5	情報の意味付けとアセスメント				講義
6	アセスメントから見えてくること				講義
7	関連図 看護診断・看護目標				講義
8	看護計画の立案				講義
9	看護記録の種類と目的				講義
10	評価について				演習
11	事例を用いて、情報からアセスメントしてみる				演習
12	目標の設定と看護計画を立ててみる				演習
13	実践してみる				演習
14	評価してみる				演習
15	看護場面から看護過程の思考を使ってみる。				演習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門分野【基礎看護学】	開講時期	1年後期	授業形態	講義 演習
科目名	総合看護技術 I	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	岩瀬依理子		
授業概要	事例に対する健康上の問題を解決し、健康に向かわせるために必要な看護を実践する内容とする。様々な看護場面において、患者の苦痛の緩和やニーズの充足に向けた援助を実施する。起こっている問題に気づき、解決するための方法を提案することができ、問題を解決する。また、よりよい方法を見出すために実践したことを客観的に評価し、さらに良い方法を提案できる力を養う。総合看護技術 I では、日常生活行動に関する援助の実践を行う。				
回	授業内容				授業方法
1	事例紹介 日常生活行動に影響を与えていることや対象のニーズを読み取る。				講義
2	環境調整の必要性に気づき、快適な環境に整える				グループ ワーク
3	実践内容を発表する デブリーフィング				演習
4	食事の場面から、食事環境を整え正しい姿勢を整えることの必要性に気づく筋力の低下により自力で摂取できない人の食事や視覚障害のある人の食事の援助について考える。				講義
5	実践内容を発表する デブリーフィング				講義
6	排泄に関する場面からおむつを使用している対象に対して排泄の自立を促す援助を考える。				講義
7	実践内容を発表する デブリーフィング				講義
8	動くことができない苦痛から動くことの大切さに気付ける場面を設定し、体位変換や車いす使用、杖歩行の対象に対する援助について考える。				講義
9	実践内容を発表する デブリーフィング				講義
10	点滴をしている人の清拭の場面から、点滴刺入部の観察や点滴部位周辺の清拭の方法について考える。				演習
11	実践内容を発表する デブリーフィング				演習
12	入浴できる人の介助について考える				演習
13	実践内容を発表する デブリーフィング				演習
14	端座位になれる人の清潔援助について考える。				演習
15	実践内容を発表する デブリーフィング				演習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テスト・実技試験などで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門分【地域・在宅看護論】	開講時期	1年後期	授業形態	講義演習
科目名	地域・在宅看護概論	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	笠原美恵		
授業概要	わが国の社会背景から地域・在宅看護の必要性を知る。地域で暮らす人々の「暮らし」を知り、住み慣れた地域社会で自分らしく暮らせる支え合いについて学ぶ。また、地域・在宅で看護を展開する際、基本となる理念を学ぶ。				
回	授業内容				授業方法
1	1. 地域・在宅看護の背景 1)人口構造の動向(少子超高齢社会) 2)健康に関する動向(康寿命) 3)地域でのケア推進の必要 (多死社会・平均在院日数短縮)				講義
2	2. 地域・在宅看護の対象の理解 1)地域で暮らしている人々(1)「暮らし」とは ・生活の質について				講義
3	2. 地域・在宅看護の対象の理解 2)「暮らし」を取り巻く地域の生活環境 (1)文化・社会的環境・自然環境 3)発達段階(胎児期～老年期)と暮らし (1)ライフサイクル・ライフステージ (2)社会との相互作用				講義
4	健康状態 (1)健康レベル (2)経過別(急性期～看取り)				講義
5	4. 地域・在宅看護を展開するための基本理念 1)アドボカシー 2)エンパワメント 3)ストレングスモデル				講義
6	4. 地域・在宅看護を展開するための基本理念 4)プライマリーヘルスケア 5)ヘルスプロモーション 6)自己効力感 7)パートナーシップ				講義
7	5. 「暮らし」を支え合う地域社会 1)自助・互助・共助・公助 2)地域でつながる社会づくり				講義
8	身近な地域の自助・互助・公助をしらべ、取り組みを発表する				演習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料、講師指定の教科書				

教育内容	専門分【地域・在宅看護論】	開講時期	1年後期	授業形態	講義
科目名	地域・在宅看護各論Ⅰ	単位数	1単位	時間数	30時間
		担当教員	笠原美恵		
授業概要	ライフステージに応じた「暮らし」の場、健康課題を知り、人々の疾病予防、健康の維持増進を支援するために必要な基礎的知識を学ぶ。				
回	授業内容				授業方法
1	1. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの特徴と「暮らし」の場 ①乳幼児期(人格・生活習慣の基礎の形成) ②小学校期(生活習慣の形成) ③中学・高校期(身体・精神のめざましい発達)				講義
2	1. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの特徴と「暮らし」の場 ④青年期(身体的な発達完了、体力の維持・増進) ⑤壮年期(身体機能が徐々に低下、生活習慣病の増加) ⑥熟年期(機能低下、健康の個人差が大きい)				講義
3	2)ライフステージの暮らしの場 ①子どもを産み育てる ②学ぶ ③働く ④病を治す ⑤老いとともに生きる ⑥最後を迎える				講義
4	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 1)乳幼児期 ①栄養・食生活 ②身体活動・運動 ③休養・こころの健康				講義
5	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 1)乳幼児期 ④歯の健康 ⑤事故防止				講義
6	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 2)小学校期 ①栄養・食生活②身体活動・運動③休養・こころの健康				講義
7	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 2)小学校期 ④歯の健康⑤たばこ・アルコール⑥性				講義
8	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 3)中学・高校期 ①栄養・食生活 ②身体活動・運動 ③休養・こころの健康				講義

回	授業内容	授業方法
9	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 3) 中学・高校期 ④ 歯の健康 ⑤ たばこ・アルコール ⑥ 性	講義
10	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 4) 青年期 ① 栄養・食生活 ② 身体活動・運動 ③ 休養・こころの健康	講義
11	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 4) 青年期 ④ たばこ ⑤ アルコール	講義
12	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 5) 壮年期 ① 栄養・食生活 ② 身体活動・運動 ③ 休養・こころの健康	講義
13	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 5) 壮年期 ④ 歯の健康 ⑤ たばこ ⑥ アルコール ⑦ 生活習慣病	講義
14	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 6) 熟年期 ① 栄養・食生活 ② 身体活動・運動 ③ 休養・こころの健康	講義
15	2. 地域・在宅で暮らす人びとのライフステージの健康課題と看護 6) 熟年期 ④ 歯の健康 ⑤ 生活習慣病	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。	
教科書	資料、講師指定の教科書	

教育内容	専門分野【成人看護学】	開講時期	1年後期	授業形態	講義
科目名	成人看護学概論	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	折田誠子		
授業概要	ライフサイクルにおける成人期の身体・精神・社会的特徴とライフスタイル、および健康課題・問題について理解する。また、各健康レベルに応じた看護を考えるうえで基本的な理論を学習し、成人看護に必要な基礎的知識を習得する。				
回	授業内容				授業方法
1	成人の生活と健康 1. 成人と生活 2. 成人の生活と健康				講義
2	成人への看護アプローチの基本 1. 成人への看護アプローチの基本				講義
3	成人の健康レベルに対応した看護 1. ヘルスプロモーションと看護 2. 健康をおびやかす要因と看護				講義
4	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護				講義
5	障害がある人の生活とリハビリテーションを支える看護 人生の最後のときを支える看護				講義
6	成人の健康生活を促すための看護技術 1. 学習者としての対象 2. 治癒過程にある対象				講義
7	成人の健康生活を促すための看護技術 3. 症状マネジメントにおける看護技術 4. 退院支援の看護技術				講義
8	成人の健康生活を促すための看護技術 5. がんとの共生を促す看護技術 6. 新たな治療法、先進医療と看護				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門分野【老年看護学】	開講時期	1年後期	授業形態	講義
科目名	老年看護学概論	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	柴田久仁子		
授業概要	<p>老いを生きる健康な高齢者の特徴や加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を看護の視点から理解し、老年看護の基本的な考え方を学ぶ。また、超高齢社会の様相、倫理的課題(身体拘束や高齢者虐待)、ならびに高齢者の自立と権利を守るための社会制度(介護保険や成年後見制度)を学ぶ。さらに受療状況に応じた看護、家族支援並びに多様なニーズに対応するために不可欠な他職種連携について保健・医療・福祉の視点から理解する。</p>				
回	授業内容				授業方法
1	1. 老年看護学の概要 1)老年看護のガイダンス 2. 老年期の理解 1)老化の捉え方 2)老年期の特徴 3)老年期の発達課題 4)老年人口の増加 5)老年期の健康状態				講義
2	3. 加齢に伴う心身の変化 1)老化の捉え方 2)高齢者の健康と疾病				講義
3	3. 加齢に伴う心身の変化 3)加齢に伴う身体機能の変化 (1)老人体験 ①装具をつけて老人体験を実施する				講義 演習
4	3. 加齢に伴う心身の変化 4)加齢に伴う認知機能の変化 5)加齢に伴う心理・社会的変化				講義
5	4. 老年者の生活 1)老年者の生きてきた時代背景、生活史 2)老年者の生活習慣、生活様式、生活リズム				講義
6	5. 老年看護の目標と役割 1)老年看護の目標 2)老年看護の役割 3)老年看護の特徴 ①安全・安楽な生活の援助 ②健康の保持増進と廃用症候群の予防 ③人生の統合を図る支援 ④家族との協働 ⑤地域包括ケアシステム 4)理論・概念の活用 5)医療チームにおける協働				講義
7	6. 老年看護の倫理 1)高齢者に対するスティグマと差別 2)高齢者虐待 3)身体への拘束 4)高齢者の権利擁護 5)高齢者の意思決定への支援				講義
8	7. 高齢者の生活に関連する保健医療福祉制度 1)医療保険制度 2)介護保険制度 3)高齢者の人権に関する制度				講義
評価方法	講義の出席数、参加態度、事前学習・事後学習・提出物・テスト等で総合的に評価する。				
教科書	講師指定の教科書 資料				

教育内容	専門分野【小児看護学】	開講時期	1年後期	授業形態	講義
科目名	小児看護学概論	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	永山治美		
授業概要	小児看護の対象を理解し、小児各期の成長・発達の特徴や現代社会の動向から小児期の健康課題を明らかにし、小児の健康障害と健全な成長発達の促進にかかわる法律や制度を学び、小児看護の理念や目的といった看護の役割を理解する。小児看護とは何かを学び、健康な小児や様々な健康障害をもつ子どもと家族が暮らす地域社会について理解する内容とする。				
回	授業内容				授業方法
1	小児看護の特徴と理念 ①小児看護の対象 ②小児看護の目標と役割 小児看護における諸統計からわかること ①人口構造 ②出生と家族 ③子どもの死亡				講義
2	小児看護にかかわる諸外国および日本の歴史 ①諸外国の児童観・育児観の変遷 ②日本の児童観・育児観の変遷 ③諸外国の小児医療・小児看護の変遷 ④日本の小児医療・小児看護の変遷				講義
3	小児看護における倫理 こどもの権利 子どもの倫理的問題と看護				講義
4	こどもの成長・発達について ①小児看護学における発達論 ②小児期の発達段階の区分と発達の領域 成長・発達の進み方(一般的原則) ①方向性・順序性 ②発達の時期 ③成熟と学習				講義
5	成長・発達に影響する因子 ①遺伝的因子 ②環境的因子 成長の評価 ①身長・体重 ②頭囲・胸囲 ③生歯 ④骨の発育 ⑤思春期 発達の評価 ①発達評価の目的 ②発達評価の方法				講義
6	小児看護における家族の特徴 家族のアセスメント 小児を取り巻く社会と暮らし				講義
7	子どもと家族を取り巻く社会(制度と法律) ①児童福祉法 ②母子保健 ③医療費の支援				講義
8	子どもと家族を取り巻く社会(制度と法律) ④予防接種 ⑤学校保健 ⑥食育 ⑦特別支援教育 ⑧臓器移植				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	専門分野【母性看護学】	開講時期	1年後期	授業形態	講義 演習
科目名	母性看護学概論	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	永山治美		
授業概要	母性看護の対象や母性看護の基本となる概念や理論、母子保健を理解し、母性看護の歴史、母性看護にかかわる職種の役割と機能、母子と家族の役割と機能、母子を取り巻く社会状況から母子の健康課題を学ぶ内容とする。				
回	授業内容				授業方法
1	母性看護とは何か ①母性の身体的特性 ②母性の心理的特性 ③母性の社会的特性 母子関係と家族発達				講義
2	セクシュアリティについて ①セクシュアリティとは何か ①セクシュアリティの発達と課題				講義
3	リプロダクティブヘルス/ライツ				講義
4	ヘルスプロモーション ①ヘルスプロモーションとは何か ②健康教育 ④協働				講義
5	母性看護のあり方 ①母性看護の理念 ②母性看護の倫理 ③安全・事故防止				講義
6	母性看護の歴史的変遷 母性看護にかかわる法と制度				講義
7	母性看護の対象と母性看護の目標 母性看護にかかわる機関と職種				講義
8	母性看護に必要な看護技術				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料、講師指定の教科書				

教育内容	専門分野【精神看護学】	開講時期	1年後期	授業形態	講義
科目名	精神看護学概論	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	柴田久仁子		
授業概要	心の健康とは何か、こころの発達と健康について考え、それに影響を及ぼす因子を理解し、現代社会の特徴と精神(こころ)の健康について考え、精神看護の意義と役割について学び、精神看護の歴史的変遷から精神保健における現状の課題を学び、精神障害・精神保健に関する法律や制度について学ぶ				
回	授業内容				授業方法
1	精神の健康とは何か(精神保健の視点から精神の健康を理解する) 1)人のこころとは何か 2)人格の発達と情緒体験 3)人間のこころと行動 4)こころの健康とは何か				講義
2	精神(こころ)の働きと機能について理解する 1)脳の構造(脳・神経系の構造) 2)認知機能と神経基盤、大脳皮質の機能区分、高次脳機能				講義
3	人間の心の発達過程と発達課題について理論をもとに理解するについて 1)エリクソンの発達理論				講義
4	家族の機能について学び、家族が精神(こころ)に与える影響を理解する 1)家族とは何か・現代社会における家族 2)家族役割と機能 3)精神障害者を身内に持つ家族の現状および抱える課題と看護介入				講義
5	精神医療福祉の歴史的変遷と精神医療の動向を理解する 1)欧米における歴史的変遷と精神医療の動向 2)日本の精神医療の変遷				講義
6	精神医療福祉の現状と問題点を考える 1)精神保健医療に関わる法制度の変遷 2)世界の精神医療の現状と課題 3)日本の精神医療の現状と課題				講義
7	精神医療をめぐる法律 1)精神保健福祉法の基本的な考え方 2)法改正の背景 3)精神保健福祉法による入院形態 4)人権擁護 5)通信の自由				講義
8	現代社会と精神の健康 1)現代社会の特徴 2)こころに影響を及ぼす社会の現象(病理現象)				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				